2016年度
第１回スピリチュアルケア研究講演会　報告

会場内の様子と佐々木炎牧師

2016年10月７日（金）に、聖学院大学ヴェリタス館教授会室において聖学院大学総合研究所の主催によるスピリチュアルケア研究講演会が、64名の参加者により開催された。この研究講演会は、本年度の基調テーマを、『人生の終幕への寄り添いを考える～かけがえのない人生への伴走と分かち合いのケア～』と設定している。その第１回講師に佐々木炎氏（中原キリスト教会牧師、NPO法人ホッとスペース中原代表、東京基督教大学兼任講師）を招き、「認知症の人と介護者へのスピリチュアルケア」の演題の下、田村綾子教授の司会により行われた。

『人は“命”だけでは生きられない』の著者でもある佐々木氏は、現代の老いや死と向き合う長年の実践活動の積み重ねを踏まえ、事例も紹介しつつ参会者の思考と感性に働きかけた。「あなたが認知症になりたくないのはなぜか」の問いかけから、「私たちが何を見ているかにより認識（パラダイム）が決まる」、という基本理念に立ち、認知症を「老いた自分を受けいれられない状況」と把握し、認知症の人への共感的理解のためには、「自分が崩壊していく辛さ」への感受性が不可欠であるとした。そして、その共感的理解を支える理念は「全ての人の人間としての尊厳を深く認めること」と提示した。その上で、認知症の本質を「本当の自分を発見し、自分を確立していくこと」と見ることで、認知症の人へのスピリチュアルケアの要点を、①個人史を整える　②関係性を整える　③役割を整える　の３つの整え、として総括した。特に、一人ひとりに「誰かに貢献できる機会と役割をつくる」ことにより、認知症の人の心理的ニーズ（例えば、ともにあること、たずさわること、自分が自分であること 等）が満たされるとともに、周りの人が評価し敬意を感じる機会の創出にもつながるとした上で、ケアとは「ケアする人、ケアされる人に生じる変化とともに成長発展をとげる関係を指している」とまとめた。

質疑応答においては、具体的なケアの場と方法についての応答がなされたが、佐々木氏が自身のライフストーリーを開示することにより、「受けた傷、負った傷が、私を私にしてくれる」、「当事者だけでは解決できないことも、たくさんの人たちに支えられて、できる」、「困難にぶつかったらみんなに告げる、そこから答えがみつかる」と、力強く語りかけたことが参会者にも大きな共感を作り出した。また、スピリチュアルケアの実践には、「ちょっとした時間を積み上げていくこと、時間のリズムを把握することが大切」であるともに、それに携わる際の根本的な理念を「共感的な理解のおおもとは、自己覚知、自己理解を前提とする」、「共苦～しんどいものを分け合って負う～が大切」と確認しつつ講演を締めくくった。

（文責：小野　久志［おの・ひさし］聖学院大学大学院アメリカヨーロッパ文化学研究科博士後期課程在学）